

第169号

まちのくすりやさん

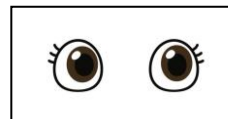
今回のおはなし



「緑内障」



「副流煙」



緑内障 無自覚で運転危険

視神経が傷つき、視野が徐々に欠けていく緑内障。高齢になるほど患者が増える病気ですが、症状の進行がゆっくりなため、自覚がない場合も多いです。そういう人が車を運転すると、思わぬ事故につながる危険性があります。高齢運転者の事故防止が叫ばれる中、専門医は、「定期的な健診で早期発見を」と訴えています。

～緑内障による視野異常が疑われる運転の特徴～

- 「横から急に車や人が飛び出してきた」と感じたことがある
- 運転中、見えていたものが一瞬見えなくなった経験がある
- 一時停止の標識を見逃してしまうことが増えた
- 曲がろうと考えていた道を見逃すことが多い
- 車を頻繁にこするようになった
- 車の車庫入れがうまくいかない、難しいと感じる
- 同乗者から運転中に「危ない」と言われたことが増えた

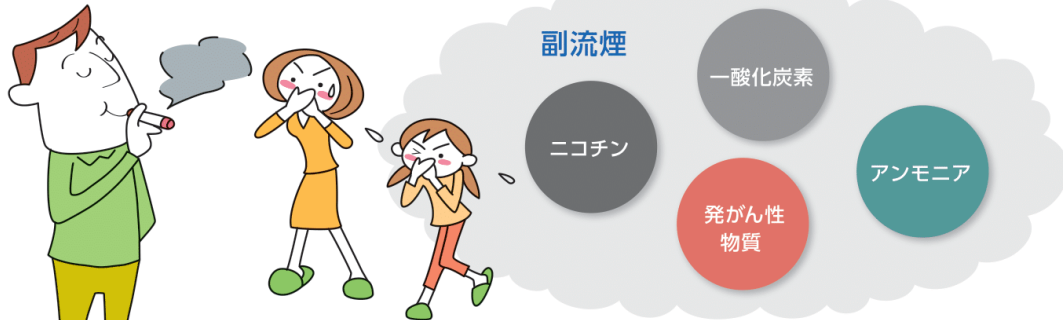
3つ以上当てはまる場合は要注意

高齢者の危険運転という認知機能の低下を疑いがちですが、実は、視野に問題がある場合があります。緑内障は、日本人の失明原因として最も多い進行性の病気です。主に、眼圧が上がることで視神経に損傷が起きて発症します。40歳以上の20人に1人が発症するとされ、長い時間をかけて視野が狭くなります。ただ、両目同時に症状が進むわけではありません。初期や中期は、見えない部分をもう片方の目でカバーできるため、視野欠損を自覚しないことが多いです。運転中、遠くに走っている時は見えている信号が近づくにつれて、視野から外れるため、その間に青から赤に変わったとしても気づきにくいです。左半分の視野が欠けていれば、前方左側に止まっている車に気づくのが遅れます、自分はちゃんと見えていると思っているから、大事故につながる可能性が高まります。緑内障は、眼圧を下げる治療を続ければ、進行を遅らせることができます。最近は点眼薬の種類も増え、点眼回数も少なく済むものもあり、生活リズムに合わせられます。ぜひ、1年に1回は検査するようにしましょう。また、何かありましたら、遠慮なく薬剤師にご相談下さい。

ガ・タバコ

たばこを吸っている人のまわりの人

副流煙には発がん性物質やニコチン、一酸化炭素などの有害物質が主流煙の数倍も含まれる

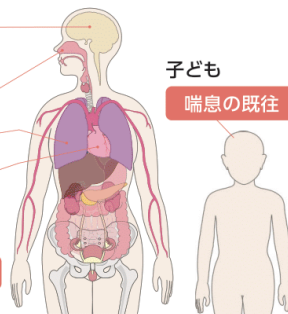


たばこの煙には、粒子成分約4,300種類、ガス成分が約1,000種類の合計約5,300種類含まれていますが、そのうち発がん性のある化学物質は約70種類です。喫煙者本人だけでなく、受動喫煙により周囲の人にも健康への悪影響が及びます。

受動喫煙でまわり的人是こんな危険が高くなる（根拠十分：レベル1）

受動喫煙が大人の健康に及ぼす影響では、肺がん、虚血性心疾患、脳卒中がレベル1と判定されています。また、たばこの煙による呼吸器の急性影響についてもレベル1です。鼻腔・副鼻腔がん、乳がん、慢性呼吸器症状、喘息などへの影響はレベル2と判定されています。

- 大人
- 脳卒中
 - 臭気・鼻への刺激感
 - 肺がん
 - 虚血性心疾患
 - 妊娠・出産
 - 乳幼児突然死症候群(SIDS*)



- 子ども
- 喘息の既往

子どもの受動喫煙でレベル1と判定されているのは、乳幼児突然死症候群(SIDS)と喘息の既往です。子どもの呼吸器症状や呼吸機能の低下、虫歯などについてはレベル2と判定されています。未成年者の喫煙は、がんや循環器疾患だけでなく全死因の死亡リスクを増加させます。

国立がん研究センター発行「喫煙と健康」より抜粋



熱中症警戒アラートが発表された際は、日ごろから実施している熱中症予防対策を普段以上に徹底することが重要です。

（一社）浦安市薬剤師会

〒279-0004 浦安市猫実1-2-5 健康センター内
 Tel 047-355-6812（月～金：10～15時）
 Fax 047-355-6810
 メールアドレス toiawase@urayaku.jp
 ホームページ <http://www.urayaku.jp/>